

「 憲法について」

洲本市 宮本結梨

憲法とは何だろうと少し考えてみました。ですが、あまりに範囲が広く、日々の生活の中で憲法との関わりを感じる事が無いので実感が湧かず結果的によくわかりません。しかし憲法の中には「人権」や「権利」や「平等」といった類の言葉が多く並んでいるのがわかります。なのでそこからへんのことについて書きたいと思います。

最近日本は不景気だと思えます。今年はいよいよ良くなりつつあると思えますが少し去年あたりを振り返ってみると「派遣切り」などの多くの労働者問題が起きました。そこで出てきてしまうのが生活困窮者の人々です。そうなれば政府は国民の税金を利用してそういった人々を助けなければなりません。これは補助を受けている人々からすると、今は仕事がなくお金が無いのだから今仕事があつてお金があり生活が成り立っている人々へ近づいて平等になろうとしています。しかし逆に税金を払う立場の人々からするとどうでしょうか。払う立場の人はいま仕事がありお金があるので税金を支払っています。でも払うだけです。そのぶん補助を受けている人々よりも出費がかさみ「不平等」が起きます。でもこの「不平等」がなければ「平等」は成り立ちません。これはすごく難しい問題だと思えます。両者の違った方面から問題を見てみると大きく違った答えが出されると思えます。私は今、まだ税金を納める立場ではありませんが、どちらかといえば後者よりの立場なのでその方面から見た意見を出します。

私もあと数年もすれば、国に税金を納めなければならないようになると思えます。そうなったとき私はその税金を使って補助を出すのは正しいと思えます。もし自分が仕事をなくして苦しい生活に陥ったとき、やはり助けてもらいたいからです。ですが今の日本の補助金などの使い方はいまいち国民の理解を得ないまま使われているので、もう少しなんとか有意義に使ってほしいと思えます。それならみんなが幸せになれると思うし、日本ももっとよくなる気がします。